

一般社団法人 日本学校教育相談学会

The Japanese Association of School Counseling and Guidance

会報

JASC

- 1 ◎緊急のお知らせとお願い
- 2 ◎第 32 回総会・研究大会（兵庫大会）延期のお知らせ//私と教育相談
- 3 ◎研修委員会//広報委員会//ガイダンスカウンセラー関連情報
- 4 ◎認定委員会//学会誌作成委員会
- 5 ◎先輩に聞く
- 6 ◎【群馬県支部】一支部活動報告一
- 7 ◎災害被災者支援委員会報告//事務局より//編集後記

第 62 号

緊急のお知らせとお願い

会長 栗原慎二

会員の皆様におかれましては、コロナウイルス感染拡大への対応に日々奮闘されていることと存じます。早期の収束を祈るばかりです。

公益法人化の学会としての手続きは完了し、書類は内閣府に提出済です。ただ、内閣府の認可作業が、こうした事態の中でストップした状態になっているようです。

しかし、近いうちに動きがあることを想定して、免許更新講習の準備を進めています。

緊急事態宣言が出ている状況の中、本学会もこれまでにない対応に迫られております。会長副会長会では、次の内容で事業を進めていくことが決まりました。

- ①2020 年 8 月 7 日～9 日に予定されていた研究大会（兵庫大会）及び夏季ワークショップの 1 年の延期。併せて 2021 年度開催予定の栃木大会も 2022 年度に延期。

②2020 年度総会は、会則に基づき、支部代表者会をもって総会と替える。

③支部代表者会は、オンラインで 8 月 7 日に開催。

④今秋実施予定の免許更新講習・一般研修会は 5 月 24 日の役員会で、1 月予定の中央研修会は 8 月の支部代表者会で、開催・非開催を決定。

総会（今年度は支部代表者会）での主要な議題は以下の通りです。詳細は、学会HPに事業報告（案）と事業計画（案）を掲載しておりますのでご覧ください。

- 1) 事業報告・会計報告について
- 2) 公益法人化の進捗状況について
- 3) 免許更新講習の進捗状況について
- 4) 事業計画・予算案について
- 5) 役員改選について
- 6) 各委員会の報告と事業計画について
- 7) 新入会員増加対策について 他

会員の皆様の意見を反映させるため、ご意見やご提案のある方は、8 月 7 日までに支部の代表の方に直接ご進言いただきますようお願いいたします。



私と教育相談

認定委員長 築瀬のり子

青木美穂子前認定委員長（現副会長）の後任の築瀬のり子です。新型コロナウイルス感染症対策のため全国の多くの学校で臨時休校となり学校内外多岐にわたる諸事変更が続く中、先生方は児童生徒



の心身の健康を守り、安心・安全の確保に心を砕かれていることと思います。また、社会にソーシャルディスタンスが浸透する状況でも、様々な方法を創意工夫しソーシャルコネクションが失われることのないようにと思うばかりです。

さて、私の『教育相談』のスタートは昭和最後の年からで、昭和天皇崩御のニュースを2度目の宿泊研修先の朝食会場で見たと覚えています。当時、栃木県では本学会名誉会長・県支部初代理事長の日野宜千先生が精力的に教育相談の普及に取り組んでくださっており、たくさん学ばせていただきました。毎週夜の講座に通ったこともありました。その後、内留の機会を得て学びを広げ、更に多くの方々のご縁ができたことも大変有り難く感謝しております。

学級担任をしていた時は、もっぱら「個の成長が集団を育て、集団の成長が個を育てる」をテーマに、学級経営に取り組んでいました。生徒一人一人の理解や支援にも集団づくりにも、学校教育相談の諸理論・技法はとても役立ちました。立場が変わってもそれは同様です。時々助けとなる理論や技法はいろいろありますが、教育相談のベースは「聴く」にあると思っています。初級研修時代のノートには「話に付いている感情と今ここでの感情は別？」「自分の感情は余所に置く??」「自分の見立てを検証する質問NG！」等々のメモが多々あり四苦八苦でしたが、今思うと非常に重要で不可欠な演習でした。

認定委員会が行っている学校カウンセラー認定に係る面接審査では、初回面接場面のロールプレイを課していますが、援助的関係づくりの基本的態度を重要視しているからです。時代は平成も終わり令和となりましたが、私自身、常に基本を踏まえた学校教育相談ができるよう精進して参りたいと思います。

第32回総会・研究大会（兵庫大会）延期のお知らせ

新型コロナウイルスの感染拡大の影響は様々なところで出ていますが、会員の皆様のところではいかがでしょうか。ただただ、早期の収束を祈るばかりです。

さて、本年、令和2年（2020年）8月7日、8日、9日に予定しておりました、研究大会（兵庫大会）及び夏季ワークショップを約1年延期いたします。これは現下の状況を受けて、臨時役員会で決定いたしました。

☆延期の理由について

- ・新型コロナウイルスの感染拡大という状況下にあつて、研究大会（兵庫大会）及び夏季ワークショップへの参加者の安全安心の確保を考慮しなければいけないこと。
- ・この時期に判断しないと、参加申込者への対応等、様々な事後対応における課題も生じてくること。
- ・大会の延期については、兵庫県支部から了解を得ていること。
- ・これに伴い、2021年度開催予定の栃木大会の順延も栃木県支部から了解を得ていること。

☆参加申込について

すでに発行済の会報で、研究大会の案内要項が同封されています。しかし、参加申込の受付は停止いたしますので、申込みはできません。問い合わせもできませんので、ご理解ご了承をお願いいたします。

すでに自主シンポジウムや研究発表を申し込まれていた方々については、兵庫県支部から直接に連絡をしていただく予定です。

☆来年度について

来年度の研究大会（兵庫大会）及び夏季ワークショップの日程等につきましては、できれば年内にお知らせする予定です。

☆総会について

学会ホームページにて、総会の取り扱いについての詳細をお知らせいたします。

（文責：会長 栗原 慎二）



研修委員会

本年度は、8月の神戸大会が延期となり、それに伴い夏季ワークショップも延期となりました。来年の夏に神戸の地で、みなさまと元気な姿でお会い出来ることを楽しみにしています。

さて、研修委員会では現在の状況の中で、当面来年（2021年）1月の中央研修会について、検討しているところです。現在は対面の会議が開けないので、メールの遣り取りで意見交換を行っていますが限界があります。今後Zoom meetingあるいはWebex meetings等でのオンライン会議で効率化を図る予定です。

中央研修会につきましては、次号で具体的な内容提示を行いたいと思いますが、現在のところ、神戸大会の内容をスライドさせる形で実施できればと考えています。ただ、会場の国立オリンピック記念青少年センターが、例年の期日ですと、宿泊が取れない状況になっています。それを踏まえた上で会場や宿泊に関しても抜本的に考えていく必要があるかも知れません。

また、今回のような状況を踏まえて、実施形態としてはオンラインを加味したような企画で出来るかどうか模索中です。

さらには、現在、研修委員の増員もお願いしているところですので、中央研修会では新委員のお披露目もできるかもしれません。

（文責：研修委員長 田邊 昭雄）

広報委員会

会員の皆様はすでに活用されているかもしれませんが、今回は文部科学省のホームページにある「学校における教育相談の充実について」という情報について少し説明をさせていただきます。完全版を読破するのは少し大変かもしれませんが、それぞれの見出しと概要を読むだけでも十分研修が深まるのではないかと思います。

まず、今日の児童生徒をめぐる状況では、社会の変化が教員や児童生徒のストレスの増大に繋がっているとの昨今の教育現場の課題が指摘されており、次に、児童生徒の視点からの教育相談の在り方について、児童生徒一人一人に対してきめ細かく対応するためには、学校とともに、多様な専門家の支援による相談体制をつくっていくことが大切であるとの

指摘がなされています。また、いじめや不登校への早期対応、児童虐待の深刻化や少年非行・犯罪の低年齢化等に適切に対応するため、早期の段階、とりわけ小学校における教育相談体制の充実を図っていく必要性が述べられています。最後に、教育相談に対する教員一人一人の意識の向上をはかることや様々な校務分掌に教育相談の機能を生かしていく発想、教育相談に関する教員研修の更なる充実が重要であると結論づけられています。

私たち学校教育相談を学ぶ会員はもとよりすべての教員にとって再確認すべきことが満載である内容だと感じました。皆様も是非一度、目を通してみてください。

（文責：広報委員長 山本 健治）

ガイダンスカウンセラー関連情報

たいへんな新年度となっております。いずれの職場でも、ご苦心をなされていることと拝察いたします。当協議会の今年度の行事を、担当委員会を中心に準備しておりましたが、新型コロナへの対応として、概ね夏までの講座、シンポジウム、研修会等を、取りやめることになりました。なお、部分的にでも、条件が整えば、延期のうえ再設定をすることも検討しております。

（1）研修行事に変わる活動を活性化

研修委員の先生方から、研修会等に代わって、ガイダンスカウンセラーの実践の集約・発信、コロナ対応の支援の情報提供などの取り組みなどの提案がありました。

委員会をまたぎながら取り組んでいけるよう、皆さまに呼び掛けていきます。

（2）文科省とのスクールカウンセラー採用要件の改善の折衝状況

渉外委員会により、文科省児童生徒課と折衝を行っています。

部分的な前進の兆候を得ていますが、現在は、文言の検討を待っているところです。

内容次第では、各地域での取り組みを推進する体制をとります。

（3）2020年の公認心理師現任者講習会

厚労省から、2020年度の公認心理師現任者講習

習会の実施要領が公表されました。

<https://www.mhlw.go.jp/content/000617045.pdf>
秋以降ですので、当協議会も4回目の開催を目指しています。

今後の情報は、<http://jsca.guide/>で確認してください。皆さまと共に、これからも厳しい状況乗り越えて、学校を支えていけますように願っております。

(文責：一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会理事 日本学校教育相談学会名誉会員・ガイダンスカウンセラー 加勇田修士)

認定委員会

○令和元年度の資格取得等の状況について

- ・学校カウンセラー新規取得者 25名
- ・学校カウンセラー更新者 95名
- ・学校カウンセラーを基礎資格としたガイダンスカウンセラー新規取得者 12名
- ・学校カウンセラースーパーバイザー更新者 74名

○学校カウンセラースーパーバイザー資格認定申請について

今年度より『学校カウンセラースーパーバイザー資格認定申請要項』に基づき、毎年、学校カウンセラースーパーバイザーの資格認定を実施します。資格申請要件の一つに、「申請時に学校カウンセラーで、その資格を継続して10年以上有していること」がありますので、本要項を、学校カウンセラー資格更新2回以上で学校カウンセラースーパーバイザーでない会員の皆様に配布いたしました。どうぞ振るっての申請をお待ちしております。

なお、次年度以降は、本要項を学校カウンセラー2回更新者のみへ配布いたします。

○今年度の諸認定申請の締切等について

- ・学校カウンセラー申請
要項配布済み。締切：9月15日
- ・学校カウンセラー更新申請
該当者への案内配布7月上旬予定。
締切：12月1日
- ・学校カウンセラーを基礎資格とするガイダンスカウンセラー申請
案内配布7月下旬予定
申請受付期間：9月1日～18日
- ・学校カウンセラースーパーバイザー申請

要項配布済み 締切：10月1日

どうぞ皆様、期日までに申請書類の御提出をよろしく申し上げます。御不明な点は認定委員会へお問い合わせください。

(文責：認定委員長 築瀬のり子)

学会誌作成委員会

本会報と共にお届けしている学会誌第30号をご覧ください。今回は特別寄稿と論文2本を掲載しています。また、「投稿規定」と「論文作成の手引き」も若干改訂していますので、次の点をご確認ください。

まず、「投稿規定」です。問合せ先や送付先の変更のほか、「8.」の記憶媒体に保存する資料を明確にしました。

次に「論文作成の手引き」です。「付記・謝辞」は、投稿段階では記載しないよう明記しました。必要な場合は、掲載決定後に記載していただきます。また、「先行研究の検索の仕方」に「J-STAGE」も例示しました。さらに、細かいことですが、本文中の図表を縮小する場合、文字が半読できる程度に留めるようお願いいたします。

さて、新型コロナウイルス対策のため、今夏の研究大会が1年延期となりました。例年、研究発表者の投稿は10月末日までとなっていました。今年は一律8月末日までとなります。「投稿規定」「論文作成の手引き」をご覧ください。多くの方からの投稿をお待ちしています。

最後に、当初、研究大会中の支部代表者会と総会でお願ひする予定でした事項を、本紙面をお借りしてお願いいたします。

支部理事長様へお願い

各支部に、論文推薦の担当者と論文指導の担当者を位置付けてください。もちろん理事長や理事の方等が兼ねてくださっても結構です。各支部で推薦して指導をし、投稿を促していただきたいと思ひます。将来的には、何らかの組織化ができないかと考えております。よろしくお願ひいたします。

(文責：学会誌作成委員長 藤井 和郎)



先輩に聞く

「私と教育相談」

奈良県支部元理事長
久保 岩男



「雪って白くないやろ、上を見たら気が付いた」
黒の濃淡で雪景色を表した子の晴れ晴れとした顔！
私は大きなショックを受けました。

新採時、村・県の作品展に、子供の絵画・書写・
作文等をクラス1～3点提出するよう求められてい
たのですが、本当に力のある子供の作品を選べてい
るのかと思い、書や絵画の展覧会に足を運び、自己
改革に努めたのです。

ある日、大原美術館で「漁り火」という絵を前に
したとき、「これだ」と心の中で叫びました。全体を
覆う黒の濃淡の中に、小さくにじんだ、しかし動い
ているかのような赤い灯。人間心理の奥底に潜む無
意識の躍動のようなものを感じたのです。

前担任から、発表をしない学級という引継ぎを受
けてのスタート。そこで、一行詩発表を企画しまし
た。①登校の際、気付いたことや出来事を朝の会で
一行にしてノートに書かせてみました。書いてから
読む方が安心できると思ったからです。②私が一番
に子供に聞いてもらい、3人ずつ互いに発表し合う
ようにしました。③子供の発表の後、私は聞いた感
じを一言伝えることにしました。例えば、「犬に鳴き
つかれた」という発表があれば、「こわかったなあ」
と言うようになります。2か月もすれば、「一行ではなく、
もっと増やしたい」との声が多くなり、活発な発表
が出る学級になりました。

何気なくやり過ぎていた無意識のうごめきを、
ふと心に留め、文にすることで意識の組上に乗せる
ことができたのでしょう。このことが、子供理解の
深化の入口でした。

県教育センター在任中、K中学校の教頭が行方不明
となる事件がありました。まさか私が後任を命ぜ
られようとは思いませんでした。これが1,300
名の生徒との突然の出会いでした。当時の中学校は
荒れているのが普通で、ここもその内の1校でした。

生徒の「ストーブが付かない」「鍵が取れない」等

の声を聞けば、道具箱を持ってその場に走りました。
修理中、まず近くに集まってくるのは異装の生徒達
でした。「ネジを緩めろよ」「油の差し過ぎだ」等と
声をかけてきます。「うん、なる程」「そうもできる
なあ」と応じながら作業を進め、修理できたときは
は、生徒達に「できたー」と、あたかも自分達が修
理したかのような喜びの声が上がりました。実際、
生徒達が修理したようなものです。道具箱は彼等の
智慧の泉でした。生徒理解は、生徒とともにあるこ
とから生まれると実感しました。

生徒が入院した時には必ず見舞いに行きました。
そのことが生徒から保護者へと伝わり、三者の人間
関係が深まりました。また、保護者・生徒との面談
を週2～3時間は持ちました。そうしないと、管理
職的発想に傾いてしまいそうに思えたからです。
校長時、入学式・卒業式での式辞は、「辞」を読むの
ではなく、生徒・保護者・教職員へ人間としての「思
い」を、直接語りかける場としました。

親・子供と接するとき心掛けていたことは、彼
等の未発達・未成熟なままの弱い部分を探し、内面
とどう接していくか、ということでした。意識で抑
圧された世界はどこへ。カウンセリングは、それを
探し求める、子供・保護者との旅です。

発達の経過・過程（生育歴）を横軸としても、何
本かの横軸が考えられるはずですが、意識・無意識を
縦軸にしても、幾筋もの層があるはずですが、その交
差するところを求めて歩まねばなりません。

短絡的に幼児期だとか思春期だとか考えてしまう
のではなく、複雑な「人間」の生きざまをどう輝か
せるのか。当たり前のようにあるけれども、大変
難しいことでした。人それぞれ、その人の生育歴が
あり、社会性があります。その全てを理解すること
はできません。少しでも相手に添えるように、「分か
った」つもりは絶対に慎み、生育史を埋める、多難
な道とともに歩むだけです。

「カウンセリング」は、生徒・保護者が自立的に
問題を解決する一助となるのみです。お礼も言われ
ず、自然に別れのときを迎えるようでありたいと思
います。それが私の願いです。

(担当：小川 正人)

【群馬県支部】一支部活動報告



1. 第29回総会並びに研究発表大会及び講演会

- ・日時 令和元年5月18日(土)
- ・会場 前橋市総合福祉会館
- ・講演 「親子の心理的な困難さへの理解と対応に関する研究」
- ・講師 館林市立第十小学校教諭 高橋 正明先生
- ・小集団研究協議
- ・行政報告 群馬県の生徒指導への取り組み
- ・講師 群馬県教育委員会義務教育課補佐生徒指導係長 酒井 暁彦 先生
- ・特色 毎年最初の研修会で群馬県教育委員会義務教育課係長の行政説明がある。
- ・講演 「トランプや100円グッズを使ったゲーム等での人間関係づくり」
- ・講師 千葉大学教育学部・附属教員養成開発センター教授 土田 雄一 先生
- ・定期総会
平成30年度事業報告
平成30年度決算報告
平成30年度会計報告、会計監査
令和元年度事業計画
令和元年度予算、令和元年度役員の選任

2. 第1回スクールカウンセラー研究発表会

- ・日時 令和元年6月29日(土)
- ・会場 前橋市総合福祉会館
- ・対象 群馬県内の相談学会所属のスクールカウンセラー
- ・内容 不登校児童生徒への指導と対策について研究協議



3. 第12回教育相談集中講座

- ・日時 令和元年7月20日(土)
- ・会場 前橋市総合福祉会館
- ・講演 「解決志向の学校教育相談～承認と可能性～」
- ・講師 目白大学教授 黒沢 幸子 先生
- ・内容 講演会、実習、グループ討議

4. 日本学校教育相談学会第31回総会・研究大会(宮城大会)

- ・日時 令和元年8月9日(金)～8月11日(日)
- ・会場 東北福祉大学
- ・内容 総会・研究大会参加



5. 第44回学校教育相談研修会

- ・日時 令和元年10月26日(土)
- ・会場 群馬県勤労福祉会館
- ・講演 「LD・ADHD等の心理的疑似体験プログラム」
- ・講師 システムズアプローチ研究所員 唐津 尚子 先生
- ・内容 講話、実習、質疑応答

6. 第2回スクールカウンセラー研究発表会

- ・日時 令和元年11月30日(土)
- ・会場 前橋市総合福祉会館
- ・対象 群馬県内の相談学会所属のスクールカウンセラー
- ・内容 不登校児童生徒への指導と対策について研究協議

7. 第26回学校教育相談実践発表・交流会

- ・日時 令和2年2月22日(土)
- ・会場 前橋市総合福祉会館
- ・協議 事例についての小集団討議(4人グループ)
- ・講師 青木 美穂子SV、吉原 隆志SV、金井 きみゑSV、藤本 重夫SV、住谷 孝明SV、武藤 榮一SV
- ・内容 小グループで事例を出し合い、アセスメントや対応策等について話し合い、最後にスーパーバイザー(SV)が指導・助言した。
- ・感想 初めての試みだったが、大変有意義な研修会ができた。来年度も実施していくことが決定した。
- ・講演 「発達障害のある子への「支援」とは?～私が重要と考えるいくつかの視点～」
- ・講師 国立のぞみの園診療所診療部長(医師) 成田 秀幸 先生
- ・内容 講演会、実習、グループ討議

8. 会報の発行 群馬支部通信

- ・第70号 令和元年6月30日発行
- ・第71号 令和2年1月31日発行

9. 役員

- ・理事長：青木 美穂子
- ・副理事長：加藤 仁子、藤本 重夫
- ・理事
住谷 孝明、武藤 榮一、吉田 益美、懸川 武史、
岩瀧 大樹、井上 淑人、遠藤 由美子、
金安 伸一、坂田 しげみ、下山 博之、
小林 秀之、松井 美雪、田村 克美、近藤千枝子、
西澤 祐美子、柴崎 博子、金子 恵美子
- ・顧問：瀬下 肇
- ・事務局長：吉原 隆志
- ・会計監査：遠藤 由美子、 下山 博之
(文責：群馬県支部事務局長 吉原 隆志)

災害被災者支援委員会報告

令和2年度の活動計画を立案しようとして、東日本の本会支部の方々々と連絡を取り始めた矢先にコロナ問題が浮上し、<緊急事態宣言>が発出されることになってしまい、実質報告すべき計画立案には至っておりません。

支援委員の顔を合わせての会合もままならずというところで、メール等でのやりとりで意見調整を行い、本部に提出した計画の概要を記したいと思います。

1. 石巻支援のまとめ

8年間の活動のまとめを行う。



2. 被災地の変遷

過去8年間の歩みを振り返ると、東日本大震災で被害の大きかった宮城県、岩手県、加えて原発事故により被災した福島県に関わりをもたせていただいた。当時宮城県支部理事長の山下先生のお力を借りて、石巻市内の小中学校への支援を中心に行ってきた。一方、福島県支部の各校の事情も複雑で何らかの支援が必要であろうということになった。

3. コロナ問題への対応

自然災害とは異なるが、人類的規模で被災しているとも考えうる感染症対策は医療的見地は別として、そこにかかわる児童生徒の人権や差別事象、家庭で過ごす時間が長くなることにかかわる諸問題等については、本学会としても今後検討していく必要があるのではないだろうか。

(文責：災害被災者支援委員会委員長 砥柄 敬三)

事務局より

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、本会の活動も変更が増えています。夏の全国研究大会やワークショップの延期だけでなく、1月の中央研修会も、今後の状況次第で変更する可能性があります。

会長副会長会・役員会はテレビ会議で実施しています。交通費や会議室使用料の削減、移動時間の短縮等、メリットもあり、活動の選択肢が増えました。○公益法人の申請中です。認可はまだです。

○ガイダンスカウンセラー資格関連情報は、推進協議会のHPを参照してください。

○学校カウンセラーの資格更新について、ポイントの取得が難しい現状です。そのため、有効期限の延長等が検討されています。

○新入会員の増加と会員に役立つ様々な取り組みにご理解ご協力をお願いいたします。

(文責：事務局長 梅川 康治)

編集後記

今回の会報62号はまさに紆余曲折の末、完成に至りました。なぜなら新型コロナウイルス感染拡大の影響は容赦なく本学会にも押し寄せてきたからです。本年8月に予定されていた総会・研究大会(兵庫大会)も1年延期となり、同時に本会報の内容も変更せざるを得なくなりました。しかしこんな非常時だからこそ、「人間万事塞翁が馬」、動揺せず落ち着いて行動することが求められるのではないのでしょうか。

(文責：広報委員長 山本 健治)

一般社団法人 日本学校教育相談学会会報
第62号

令和2年6月20日発行

発行 一般社団法人 日本学校教育相談学会
会長 栗原 慎二

編集 一般社団法人 日本学校教育相談学会
広報委員会 委員長 山本 健治

事務局 〒179-0073

東京都練馬区田柄3-11-28

一般社団法人 日本学校教育相談学会事務局

電話/FAX 03-3926-7386

HP <http://www.jascg.info/>